

◆授業のポイント◆

- ・ 習得と活用を関連付けた単元構成及び効力感・必要感を高める開発教材の工夫
- ・ 対象を比較・分析して文章にまとめる工夫

国語科学習指導案

日 時 平成22年6月4日(金) 1校時
学 級 3年6組(男子18名 女子18名 計36名)
授業者 教 諭 川 端 成 實

1 単元

情報社会と言葉の力 教材名「メディア・リテラシー」「自分の考えを伝えよう」

2 単元について

本単元では、教科書教材「メディア・リテラシー」と開発教材である「自分の考えを伝えよう」の学習を行う。「メディア・リテラシー」の授業では、情報社会といわれる現在「メディアが伝える情報は、現実を再構成したものである」という基本的な認識をしっかり受け止めさせたい。その上で、情報の中心的な発信者としてメディアにどのように対応すべきかを考えさせたい。そして、その基本的な姿勢として、メディアが伝える情報を建設的に批判する姿勢の大切さに気付かせたい。また、開発教材「自分の考えを伝えよう」では、「メディア・リテラシー」の学習で学んだ比較や引用の仕方を生かして、自分の考えを論述したりお互いの考えを批評し合ったりする言語活動に取り組む。ここでは、4月に行われた「一日遠足(霧島池めぐり)」での体験を生かして「霧島池めぐり案内フライヤー(チラシ)」を作成する活動に取り組ませる。フライヤー(チラシ)作成の中では、テーマにそって情報を比較し、その情報の中から適切なものを選択し伝える力を付けたい。また、その際に、選択された情報を比較、引用して批評することで、根拠を明確にして書いたり話したりする力を身に付けさせたい。このような活動は、これからの情報社会に生きる言葉の力を身に付けるために重要であると考えられる。

本学級の生徒は、学習に対して積極的に取り組む。教師の発問に対して進んで答えたり意欲的に話し合い活動を行ったりする姿勢が見られる。一方、学力の個人差が大きく理解や表現の能力にも幅がある。特に書く能力においてそれは顕著に見られる。自分の立場や伝えたい事実・事柄を明確にすることや自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くことに課題がある。また、自分の考えを話したり相手の意見を聞いたりする場合も、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすることなどが十分であるとは言い難い。そこで、本単元での学習を通して、比較や引用を学習の柱に、自分の考えを論述したりお互いの考えを批評し合ったりする言語活動に取り組ませることは、伝えたいことや根拠を明らかにして書いたり話したりする力を伸ばしていくに当たって意義あることといえる。

指導に当たっては、「メディア・リテラシー」においては、メディアが伝える情報を分かりやすく説明するために用いている、比較や引用の仕方に注目して文章を読み取るよう配慮したい。特に視点や立場、目的意識の違いが表現の違いを生むことを理解させたい。それを踏まえて「自分の考えを伝えよう」では、自分の考えをよりよく相手に伝えるために、与えられた情報を比較する中でどんな情報を選択し組み合わせるかを考えさせたい。特にフライヤーの特質から、相手分析による観点・情報の選び方、目的達成のための構成の組み立て方に留意させたい。また、どれ(どこ)を引用するかを考えて文章を書かせたり、自分や相手の表現手段や材料が適切だったのかを話し合わせたりさせたい。さらに、新学習指導要領においては3年時の「書くこと」における言語活動例にある「批評する文章を書くこと」を意識した指導を取り入れたい。その際、1・2年で学習してきた

た「鑑賞して文章を書こう」や「ポスターセッションをしよう」の学習を生かして論述したり意見交換したりするように配慮したい。

3 単元の目標

- (1) 情報社会における情報の受信や発信の姿勢やあり方について考えを深めることができる。
- (2) 根拠となる資料や情報を明確にしなが、異なる立場の意見も尊重して話し合うことができる。
- (3) 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くことができる。
- (4) 論理の展開の仕方や表現の仕方に注意して読み、内容理解や自分の表現に役立てることができる。

4 単元の指導計画（全8時間）

過程	活動のねらい	主な学習活動	時数	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習目標と学習計画を確認させ、学習への見通しをもたせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 単元の学習目標と学習計画を確認する。 2 本時の学習目標と学習の進め方を確認する。 	0.3	<ul style="list-style-type: none"> 学習目標と学習計画を提示するとともに、学習の進め方を明確にする。 単元の学習に対して興味・関心を高めるための資料を提示する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> 「メディア・リテラシー」の範読を聞かせ、概要を理解させる。 初発の感想を書かせ、感想交流をさせる。 新出漢字と重要語句を確認させる。 筆者の意見の中心をとらえ、論の展開を明らかにさせる。 筆者の結論を踏まえ、筆者の主張を明らかにさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> 3 「メディア・リテラシー」の範読を聞く。 4 初発の感想を書き交流する。 5 新出漢字の読みと重要語句の意味を確認する。 6 全文を5つに分けそれぞれの主な内容について理解する。 	0.7	<ul style="list-style-type: none"> 印象に残ったこと、初めて知ったことなどに線を引かせながら読ませる。 筆者が主張したいと考える一文を予想し、その一文を引用して感想を書かせ発表させる。 電子黒板を活用する。 語句の意味調べを宿題として出す。
		<ol style="list-style-type: none"> 7 メディアが伝える情報とは何かをとらえ、筆者の主張を読み取る。 	2	
	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えを伝えよう」の学習について理解させる。 テーマにそってフライヤーを作らせる。 フライヤーに用いる写真を絞り込ませる。 比較や引用の仕方を利用して文章を書かせる。 表現手段（材料）が適切だったのかを批評させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 8 「自分の考えを伝えよう」の学習について説明を聞く。 9 フライヤーのテーマに添って、キャッチコピー、レイアウト、紹介文を考える。 	1	<ul style="list-style-type: none"> メディアが伝える情報の影響力の大きさをとらえさせ、メディア・リテラシーの必要性に注目させる。 「NHK国民生活時間調査」を引用してきたことの意味に注目させる。 「霧島池めぐり案内フライヤー作り」の学習目標と学習計画を確認させる。 フライヤーの見本を準備しイメージを持たせる。 テーマは「霧島池めぐりの良さを伝えよう」とし、それぞれの項目について個人で考えたものを班内で発表し合い決定する。
		<ol style="list-style-type: none"> 10 フライヤーに用いる写真の絞り込みをする。 	1	
	<ol style="list-style-type: none"> 11 フライヤーに用いる写真を提案する文章を書く。 12 写真の提案理由を、論述した原稿を参考に、自分の意見を述べる。 13 テーマにふさわしい写真を決定し、フライヤーを完成させる。 	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> 写真を提案する文については、班で絞った2枚を、テーマ等を踏まえ、写真の構図、色合い、被写体などの良し悪しを比較して書かせる。 必要に応じて引用を用い論の補強をさせる。 班内で自分の選んだ写真を見せながら、自分の意見を述べさせる。 班の代表を1点決めさせる。 	
	<ol style="list-style-type: none"> 14 池めぐり案内のフライヤー作りを振り返る。 15 本単元のまとめをし、次への意欲をもつ。 	0.8	<ul style="list-style-type: none"> 班の代表を学級で発表させ、その中から最も良いフライヤーを選ばせる。 班の代表に発表させ投票で決める。 	
終末	<ul style="list-style-type: none"> 本単元のまとめをさせ、次の学習への意欲をもたせる。 		0.2	<ul style="list-style-type: none"> フライヤー作りを通しての成果や改善点を発表させる。 本単元の活動に対して振り返りを書かせる。 次単元の予告をする。

5 本時の実際（7／8）

(1) 学習目標

フライヤーに用いる写真を提案する文章を書き、班の代表を決めよう。

(2) 目標行動

- ① 根拠や論の展開に気を付けてフライヤーに用いる写真を提案する文章を書くことができる。
- ② 根拠となる資料や情報を明確にしながらい説得力のある文章を選ぶことができる。

(3) 授業設計の工夫

① 習得と活用を関連付けた単元構成及び効力感・必要感を高める開発教材の工夫

本時の授業設計に当たり、思考力・判断力・表現力をはぐくむため次のように習得と活用を関連付けて単元構成を行った。

教材 領域	メディア・リテラシー	自分の考えを伝えよう（開発教材）	
	読む	書く	話す・聞く
比較・引用の習得と活用の関連	比較の仕方や引用の仕方に注目して文書を読み取る。	比較の仕方や引用の仕方を活用して文章を書く。	比較の仕方や引用の仕方を活用して自分の考えを述べる。
	メディアが伝える情報(対象)を比較する。	自分たちが伝える情報(対象)を比較する。	
具体的な言語活動と各段階における指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較して読ませることで「視点」や「立場」の違い、「目的意識」や「相手意識」の違いなどが表現の違いを生むことを理解させる。 <比較を使った説明> ○ 日米報道の比較 ↓ ・ 視点を変えれば「現実」も異なって見える。 ○ 「米・中・香・英・日」の報道の比較 ↓ ・ 報道されている「現実」が全く異なっていた。 <引用を使った説明> □ 「NHK調査によれば…」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちは、何を選択、組み合わせるか。また、どれ(どこ)を引用するかを考えて文章を書かせる。 「フライヤー用の写真を選ぼう」 ○ テーマ ○ 構図 ○ 色 ○ 被写体(アイテム)などから、写真を比較してどれがいいのかを論述する。(批評的要素) 引用で論を補強する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「表現手段」(材料)が適切だったのかを批評し合う。 「フライヤー用写真を決定しよう」 ○ それぞれの提案理由を論述した原稿を参考に口頭で自分の意見を述べる。 ↓ ○ テーマにふさわしい写真を決定する。

また、効力感・必要感を高めるために、開発教材においては「フライヤー(チラシ)づくり」を課題として取り組ませた。フライヤー作成は、次の点で良さがある。①キャッチコピー、レイアウト、文章などの組み合わせによって思考力・判断力・表現力等の総合的な力を見ることが出来る。②また、論述も「自分の考えている写真を採用してもらおう」という発想から書くことになるので、「書くこと」について抵抗感のある生徒も、国語が苦手な生徒にも学ぼうとする意欲が高くなると考える。③さらに、フライヤーなどの作成は、例えば企業内におけるチラシやパンフレット作りも合わせて社会生活において必要性の高い活動である。また、「写真と文や文章を組み合わせる」活動は、学級新聞や学級文集の中に写真を取り入れたり、年賀状などで写真付きはがきを作成したりする場合などの身近な部分に活かされる活動で、将来的にも必要性が高い。

② 対象を比較・分析して文章にまとめる工夫

対象を比較・分析して文章にまとめる工夫として次のような手順を踏ませる。

	まとめる手順	各段階のねらいと工夫及び留意点
1	「良さの視点」を共通理解する	「書くこと」における学力差を埋める【相手・目的に応じた選択】
2	特徴をつかむ	視点を決める(何を見るのか)【全体から部分へ(鑑賞文指導の活用)】
3	特徴を比べ書き出す	相違点を探す(何が違うのか)【比較分析表(レポート指導の活用)】
4	特徴を論述する	書き出し・構成の工夫、ナンバーリング、事実と意見の書き分け、接続詞の活用など【表現の工夫】

また、提案する文という形ではあるが、実際は2枚の写真を比較し、批評して書く文章になるので、フライヤー用として採用しようとする写真の特徴だけでなく、採用しない写真の特徴と理由も記述させる。

(4) 展開

過程	主な学習活動	時間 形態	○指導上の留意点◎評価※授業のポイントについて
導入	1 前時の学習内容を想起する。 2 本時の学習目標と学習の進め方を確認する。 フライヤーに用いる写真を提案する文章を書き、班の代表を決めよう。	3 一斉	○ 前時の資料を利用して確認する。 ○ 学習目標を提示するとともに、学習の進め方を明確にする。
展開	3 フライヤーに用いる写真を提案する文章の書き方について知る。 4 2枚の写真を比較して、フライヤーに用いる写真を提案する文章を書く。 5 班のチームごとに、説得力のある提案の文ができるように相互に提案する文章を交流し修正する。 6 提案する文章を班内で交流し、班の代表の提案の文を決める。	7 一斉 22 班 個 8 チーム (班) 7 班	※ モデルとなる構成を示して提案する文章を抵抗なく書かせるようにする。 ※ 「良さの視点」(提案する文章に入れる内容)を班で話し合いをさせた後に、書かせる。 ※ 次の点に気を付けて書かせる。 ・ 視点を決める。 ・ 特徴を比べ書き出す。 ・ 特徴を論述する。 ・ 根拠は写真の中の事実に基づいて書く。 ・ 採用しない写真の理由も書く。 ○ 書かせる際は、構成を工夫するための段落分けに気を付けさせる。 ※ 班内を2チームに分けて書かせ、A・B2枚の写真両方の立場から提案する文章がでるようにさせる。 ◎ 根拠や論の展開に気を付けてフライヤーに用いる写真を提案する文章を書くことができたか。 ※ チームの中で、視点を整理して交流する。修正した方が良い部分や表記上の誤りなどは、付箋を付けて渡す。 <交流上の視点> ・ 特徴を述べているか。 ・ 採用しない理由も述べてあるか。 ・ 目的意識、相手意識が明確か。 ○ 説得力のある文を選ばせる。また、代表が決まった班の提案する文章を書画カメラを使って紹介し良い点を確認させる。 ◎ 根拠となる資料や情報を明確にしなが、説得力のある文章を選ぶことができたか。
終末	7 フライヤーに用いる写真を提案する文章について振り返る。 8 本時のまとめをし、次時への意欲をもつ。	一斉 3	○ 提案する文章について次時に学級代表を決めることを伝える。 ○ 本時の活動に対して振り返りを書かせる。 ○ 次時の予告をする。